

沖縄県 八重山圏域 総合水産基盤整備事業計画

1. 圏域の概要

(1) 水産業の概要

① 圏域内に位置する市町村および漁業協同組合の概要

当圏域は沖縄本島から南西約 410 km に位置する八重山諸島にあり、第 2 種漁港の石垣漁港を流通拠点とし 1 市 2 町、2 漁協、8 漁港で構成される圏域である。圏域全体の陸揚げ金額は約 10 億 4,300 万円（令和元年）に上る。なお、圏域内各漁業組合における合併に関する協議は行われていない。

当県域に位置する市町村のうち石垣市には流通拠点に位置づけられている石垣漁港の他 3 漁港を有している。石垣漁港では、主にモズク類やマグロ類、ソデイカが陸揚げされており、主に相対取引により県外・県内に出荷されているほか、漁港内の産地市場では、当該漁港で陸揚げされた沿岸鮮魚類や圏域内の漁港から水産物が集荷され、県外・県内・島内に出荷されており、水産物の安定供給に重要な役割を担っている。また、八重山漁協では生産拠点に位置づけられている登野城漁港において、漁港内の水域を活用しヤイトハタの養殖を行っているほか、各種イベント（魚捌き、漁業体験）を開催し地域の活性化に貢献している。さらに、船越漁港には水産物直売所や水産物レストランがあり地元客を中心に賑わいをみせている。

竹富町は、波照間漁港他 2 漁港を有しており、波照間漁港や西表漁港ではいか釣りや一本釣り等によるソデイカや沿岸魚類等の水産物が陸揚げされ、圏域内の産地市場に出荷されるほか、浜売りにより島内に流通している。また、細崎漁港では主に海藻類養殖業によるモズク類が陸揚げされ、市内の石垣漁港している。さらに、竹富町では今後、プレジャーボートの漁港利用や漁港水域を活用した養殖（ガサミ等）も検討されている。

与那国町は、久部良漁港を有しており、ひき縄釣りや一本釣りによるかじき類やハマダイやアオダイ等の水産物が陸揚げされ、漁港内の産地市場により島内に流通されるほか、相対取引等により県外・県内に出荷されている。さらに、与那国町漁協では、釣り大会を実施し、地域活性化に貢献しているほか漁港内で水産物レストランを行っており、地元客を中心に賑わいをみせている。

② 主要漁業種類、主要魚種の生産量、資源量の状況

圏域における主要水産物の生産量は 2,047 トンとなっている。主な漁業種類及び魚種として、海藻類養殖業やはえ縄釣りであり、モズク類やソマグロ類、かじき類であ

る。また、主要魚種の生産量は、モズク類で934トン、マグロ類で507トン、かじき類で96トンとなっている。

圏域全体では、地球温暖化によるサンゴ礁の減少等に伴い、沿岸域の資源量は総じて低下しているものの、沖合域では、漁船の大型化によるマグロはえ縄等の遠方進出や浮魚礁の設置による安定した生産量の確保、ソデイカの旗流し漁業による海域毎の旗本数制限等の資源管理により、近年の生産量は横ばいで推移している状況となっているほか、サンゴの保護区を設定しモニタリングやサンゴ礁域の沿岸性魚類を対象に資源管理に取り組んでいる。

③ 水産物の流通・加工の状況

当圏域では、圏域内の漁港内に2箇所の産地市場が開設されており、鮮魚類を中心とした水産物は当該産地市場を通して県外・県内に出荷されているものの、特定魚種や離島地域においては、相対取引や浜売りにより地域内外に流通されている。また、圏域内にモズク類や鮮魚類を対象とした加工施設が石垣漁港内に隣接されており、ほとんどが1次加工され県外・県内に出荷されている。

④ 養殖業の状況

圏域における主要な養殖水産物の生産量は令和元年で約933トンとなっている。主な水産物としてモズク類やハタ類、海ぶどう（クビレズタ）であり、特にモズク類においては、圏域内の多くの沿岸海域で盛んに行われており、圏域全体のモズク陸揚量の98%が養殖モズクである。また、石垣漁港においてはモズクの養殖生産拠点地域に位置づけられており、今後も生産量の増大が期待される。

⑤ 漁業経営体、漁業就業者（組合員等）の状況

令和元年における圏域内の組合員数は429人、漁業経営体数は210体であり、平成26年に比べそれぞれ22人（5%）減、20体（9.5%）減でやや減少傾向にある。県内漁業就業者の年齢構成に鑑みれば、その傾向は継続するものと思われる。

⑥ 水産業の発展のための取組

八重山地区では、浜の活力再生プランにおいて漁業所得向上のため石垣市加工処理施設を活用した観光客向けの商品開発を推進するほか、水産物の安全安心な流通体制の強化のため高度衛生管理型荷さばき所の整備に向けて取り組むこととしている。

⑦ 水産基盤整備に関する課題

圏域内における水産基盤においては、水産業の成長産業化の実現に向けた水産物の

安定供給の確保、海洋環境の変化に対応した浮魚礁等の整備、漁港・漁村の災害リスクへの対応力強化、漁港施設の予防保全型等の老朽化対策、海業による漁村の活性化、多様な人材が活躍できる漁港・漁村の環境整備などの課題を抱えている。

⑧ 将来的な漁港機能の集約化

石垣漁港と登野城漁港の荷さばき所を集約化し、新たに石垣漁港に衛生管理体制を強化した荷さばき所の整備が検討されている。

(2) 圏域設定の考え方

① 圏域タイプ	流通拠点型	設定理由；本圏域唯一の第2種石垣漁港を流通拠点とし、水産物の安定供給と県内外における競争力を強化する範囲。
② 圏域範囲	石垣市、竹富町、与那国町	設定理由；流通拠点漁港である石垣漁港を主な集約先としている範囲
③ 流通拠点漁港	石垣漁港	<p>設定理由；石垣漁港は圏域内唯一の第2種漁港で、漁港内には圏域最大の産地市場を有しており、その取扱量は1,262トンである。</p> <p>今後は、輸出先国等のニーズに対応した衛生管理水準を導入するとともに災害発生後も圏域内の流通の拠点としての機能を早期に回復させる体制を整備するため、BCPの策定や災害時の漁港利用者の避難対策を検討する。また、産地市場ではICTを導入している。</p>
④ 生産拠点漁港	登野城漁港	<p>設定理由；登野城漁港の港勢は登録漁船157隻、陸揚金額は235百万円である。石垣漁港に次ぐ圏域内2位の生産量があり、漁港内ではハタ養殖が行われている。</p> <p>また、現在、台風等荒天時における避難漁船の安全係留施設の整備等を実施している。</p>

⑤ 輸出拠点漁港	石垣漁港	設定理由；衛生管理体制を強化した新たな荷さばき所の整備が検討されており、アジア圏への地理的優位性や直通の航空便を活用した国外への生鮮マグロ類やイカ類等の販路拡大が期待される。
----------	------	---

(令和元年)

圏域の属地陸揚量(トン)	2,047	圏域の登録漁船隻数(隻)	509
圏域の総漁港数	8	圏域内での輸出取扱量(トン)	
圏域で水産物の水揚実績がある港湾数			

当該圏域を含む養殖生産拠点地域名	石垣漁港
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における主要対象魚種	モズク類
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における魚種別生産量(収穫量)(トン)	424.3
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における魚種別海面養殖業産出額(百万円)	75

2. 圏域における水産基盤整備の基本方針

(1) 産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化

① 拠点漁港等の生産・流通機能の強化

- ・漁船の大型化に対応した岸壁の延伸や泊地の増進等の整備することにより、拠点漁港における生産・流通機能の強化を図る。
- ・地域の中核的な生産拠点となる漁港において安定した漁業生産等に資する施設機能の強化を図る。
- ・輸出先国等のニーズに対応した衛生管理水準(L2以上)の導入や産地市場のICT化について検討する。

② 養殖生産拠点の形成

- ・本圏域の主力水産物であるモズクの養殖生産拠点地域において、防暑施設等の整備により品質管理体制の強化を図る。

(2) 海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保

① 環境変化に適応した漁場生産力の強化

- ・沿岸域の資源低下等の海洋環境変化に対応し沖合域への漁業展開を促進するた

め、浮魚礁の整備を行うとともに、海域の環境変化を把握するため亜熱帯海域の重要な基礎生産の場であるサンゴのモニタリングを行う。

②災害リスクへの対応力強化

- ・老朽化が進行している漁港施設において、効率的な維持管理を行うとともに機能保全計画の見直しや予防保全型の老朽化対策を実施することにより、持続可能なインフラ管理を推進する。

(3)「海業」振興と多様な担い手の活躍による漁村の魅力と所得の向上

①「海業」による漁村の活性化

- ・漁場就業者数の減少等により漁村地域の活力が低下している漁港において、浮棧橋等の整備し、プレジャーボート等の受入環境を整備することにより、漁港の利用適正化による活用促進を図る。

②地域の水産業を支える多様な人材の活躍

- ・生活航路を有する離島の漁港において、防波堤や防風柵の整備等による安全対策の推進により、漁村の活性化を推進する。
- ・高齢化等により生産活動を支える人材が減少してきていることから、多様な人材が安全で働きやすい環境が整備されていない漁港において、浮体式船岸や防暑施設等を整備し、就労環境の改善を図る。

3. 目標達成のための具体的な施策

(1) 産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化

①拠点漁港等の生産・流通機能の強化

地区名	主要対策	事業名	漁港・港湾名	種別	流通拠点
石垣	流通機能強化	水産流通	石垣	2	石垣
登野城	流通機能強化	水産生産	登野城	1	石垣

・産地市場を有し圏域内の漁港から水産物が集約される石垣地区において、輸出先国等のニーズに対応した衛生管理水準（L2以上）の導入やICTの導入による生産活動の効率化等を検討するほか、安定した漁業生産等に資する施設機能の強化として波除堤や岸壁等の整備により、産地における価格形成力の向上と生産・流通コストの縮減を図る。

・石垣城地区において、漁船の大型化に対応した岸壁の延伸や泊地の増進等の整備することにより、拠点漁港の生産・流通機能の強化を図る。

・地域の中核的な生産拠点となる登野城地区において、安定した漁業生産等に資する施設機能の強化として護岸や浮棧橋等の整備により、産地における価格形成力の向上

と生産・流通コストの縮減を図る。

②養殖生産拠点の形成

地区名	主要対策	事業名	漁港・漁場名	種別	流通拠点
石垣	養殖拠点	水産流通	石垣	2	石垣

・モズクの養殖生産拠点地域である石垣地区において、就労環境改善のため防暑施設等の整備により、国内外の需要に応じた安定的な養殖生産を行う拠点の形成を促進する。

(2) 海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保

①環境変化に適応した漁場生産力の強化

地区名	主要対策	事業名
沖縄	環境変化	水産環境

・沖縄地区において、沿岸域の資源低下等の海洋環境変化に対応し、沖合域への漁業展開を促進するため、浮魚礁の整備を行うとともに、圏域内の沿岸海域において、海域の環境変化を把握するため亜熱帯海域の重要な基礎生産の場であるサンゴのモニタリング調査を検討する。

②災害リスクへの対応力強化

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
石垣	安全・安心	水産流通	石垣	2	石垣
登野城	予防保全	機能保全	登野城	1	石垣
船越	予防保全	機能保全	船越	1	石垣
久部良	予防保全	漁村環境	久部良	4	石垣

・石垣地区において、地震・津波・波浪等に帯する防波堤や護岸、岸壁等の安定性を確保するため、防災対策を行うとともに、登野城地区ほか2地区において、老朽化が進行している漁港施設の機能保全計画の見直しや予防保全型の老朽化対策を行う。

(3) 「海業」振興と多様な担い手の活躍による漁村の魅力と所得の向上

①「海業」による漁村の活性化

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
久部良	活用促進	漁村活性化	久部良	4	石垣

・久部良地区において、漁港内の空きスペースを活用して遊漁等のための係留施設等の整備により、漁港の利活用の促進を図る。

②地域の水産業を支える多様な人材の活躍

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
波照間	生活環境	漁村再生	波照間	4	石垣
登野城	就労環境	水産生産	登野城	1	石垣

・離島の生活航路を有する波照間地区において、波除堤や浮棧橋の整備による生活環

境の安全対策向上を図るほか、登野城地区において、浮棧橋等を整備し、就労環境の改善を図る。

4. 環境への配慮事項

・整備計画の策定及び工事の実施にあたっては景観、近隣住民との調整に配慮し、施工にあたっては水質悪化により漁業被害、サンゴ礁等に対する環境破壊等が生じることがないように留意する。

5. 水産物流通圏域図

